

東京海上日動仙台支店における研究会で講演しました(2019/6/19)

テーマ：産学官連携、防災・減災

場所：東京海上日動仙台支店（仙台市青葉区）

2019年6月19日(水)に東京海上日動火災保険株式会社（以下、東京海上日動）仙台支店にて開催された「仙台支店パーソナルビジネス研究会」において、産学連携の取組として、当研究所のサッパシー・アナワット准教授（災害リスク研究部門・寄附研究部門（兼））と保田真理プロジェクト講師（地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門）が講演しました。

研究会には、東京海上日動の社員約 80 名が出席し、仙台支店のみならず東北地方の 7 つの営業店へも TV 会議にて配信されました。

井澤理事仙台支店長の講演挨拶に続き、サッパシー・アナワット准教授が、「東日本大震災の教訓と今後の防災のあり方～人的被害ゼロを目指して～」と題し、東日本大震災前の状況、大震災から明らかになった知見とともに、人的被害ゼロを目指す災害科学のこれからについて講演しました。

続いて、保田真理プロジェクト講師が、「わかりやすく伝えるー防災意識と減災行動ー」と題し、防災意識と減災行動の関係性や、その解明と向上に関する調査研究について講演しました。

この他、寄附研究部門より 3 名の教職員（山下啓准教授、武田真一学術研究員、宮本龍助手）も出席しました。

講演後の Q&A では、講演内容に関連し、産学連携の在り方や、リスク情報の伝え方などを中心に、社員と講演者を交えた闊達な議論となりました。

参加した社員の感想（一部）：

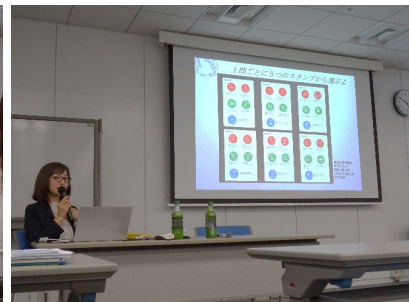
- 東日本大震災を経験していたものの、津波等リスクへの警戒心が少し弱まっていた気づきとなった。
- 震災時の避難に関するアンケート結果で、生存者と犠牲者の時間の差が短いことに、いかに迅速に非難することが大切かを感じた。
- お聞きした研究内容や戦略を一人でも多くの人にお伝えし、認知されることが非常に大切であるが、難しい点でもあると思う。人的災害ゼロに向けては一人ひとりに対する啓発が最も大切であると感じた。保険も“小さい子どもへお伝えすること”が物凄く大切だと感じた。
- 今日お聞きしたお話しや多くの災害リスクをしっかりとお客様や代理店さんにお伝えし続け、防災・減災に向けた行動をとっていきたい。



井澤徹理事仙台支店長



サッパシー・アナワット准教授



保田真理プロジェクト講師

文責：宮本 龍（寄附研究部門）